

オポナカムラ 彩発見!!

オポナカムラは古代語で「大中村」の意。
 国指定文化財「大中遺跡」の最新の調査をもとに、様々な観点から
 ふるさとの誇れる遺跡について考えてみたいと思います。

【問い合わせ】郷土資料館 ☎079(435)5000



播磨町マスコットキャラクター
いせきくん、やよいちゃん

昭和41年の
大中遺跡航空写真



1 だれも気にとめなかつた土器片

大中遺跡は、昭和37年、当時、播磨中学校3年生だった浅原重利さん、大辻真一さん、大辻要二さんによって発見されました。

3人は、2年生の夏休み、社会科の自由研究で古墳についてまとめたレポートが金賞となり、ますます考古学に興味を持つようになりました。休日になると3人は自転車で、近隣の古墳や遺跡を見て回り、遠くは姫路や加西まで調査に出かけました。

そんなある日、地元のお年寄りから、大正時代、大増畑おおぞはたと呼ばれている畑地（現在の大中遺跡）に別府鉄道が敷かれた時、タコツボが大量に掘り出されたことを聞きました。

そこで、3人は、山之上住吉神社南側の土砂の採掘跡に行き、大量の土器片が散らばっているのを見つけました。学校から帰ると毎日のように土器の採取に出かけましたが、それを秘密にしました。その後、整地された工場用地にも多くの土器片が散布しているのを見つけ、夢中で掘り出しました。気がつけば、大きなダンボール箱に何杯も掘り出していました。3人は、偶然にも土器

群の真ん中を掘り当てていました。

そんな時、たまたま新聞で高砂市の古墳発掘調査を知り、自転車で出かけました。そこで3人は、掘り出された古墳の石材や出土品が丹念に、しかも精密に一つ一つ実測されていることに大きなショックを受けました。帰ってすぐに相談し、秘密を打ち明けることにしました。近隣の高校で考古学に詳しい先生がいることを知り、連絡を取ってもらいました。先生はすぐ駆けつけて来られ、ひと目土器を見るなり、弥生式土器と鑑定されました。

マスコミは、弥生時代の遺跡の発見を大きく取り上げ、3人は、時の人ときの人となりました。採取された遺物は、大中地区の善福寺ぜんぷくじに保管され、「遺跡発見届」が町・県教育委員会に出されました。県からすぐに専門家が派遣され調査が始まりました。

※当時は、文化財保護法が周知されていませんでした。埋蔵文化財を発見し発掘する場合は、町教育委員会への届出が必要です。

町の人口 3月1日現在

34,192人(+3人)

(住民基本台帳人口+外国籍人口)

男…16,804人(+9人)
女…17,388人(-6人)

世帯数…13,516(+8)

【お詫びと訂正】3月の「町内の文化財」の本文5行目「二万年前、ここで大型動物」は「約一萬年前、鹿など」とし、正解も「③鹿などをとらえるため」とお詫びして訂正いたします

